



平成26年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成26年2月4日

上場会社名 東武鉄道株式会社 上場取引所 東
 コード番号 9001 URL <http://www.tobu.co.jp/>
 代表者 (役職名) 取締役社長 (氏名) 根津 嘉澄
 問合せ先責任者 (役職名) 財務部主計担当課長 (氏名) 木山 一郎 (TEL) 03-5962-2183
 四半期報告書提出予定日 平成26年2月14日 配当支払開始予定日 ー
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成26年3月期第3四半期の連結業績(平成25年4月1日～平成25年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	営業収益		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年3月期第3四半期	430,498	0.9	44,378	10.6	40,519	16.3	25,454	23.5
25年3月期第3四半期	426,664	7.0	40,112	60.5	34,842	67.0	20,616	78.4

(注) 包括利益 26年3月期第3四半期 34,159百万円(36.9%) 25年3月期第3四半期 24,954百万円(49.3%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年3月期第3四半期	23.82	23.75
25年3月期第3四半期	19.29	19.23

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
26年3月期第3四半期	1,484,382	354,674	22.7
25年3月期	1,463,370	327,739	21.2

(参考) 自己資本 26年3月期第3四半期 336,997百万円 25年3月期 310,876百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年3月期	ー	3.00	ー	3.00	6.00
26年3月期	ー	3.00	ー		
26年3月期(予想)				3.00	6.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

※上記の配当金の内訳は、第2四半期末および期末それぞれ普通配当2円50銭、記念配当0円50銭であります。

3. 平成26年3月期の連結業績予想(平成25年4月1日～平成26年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	営業収益		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	586,000	1.5	53,500	1.8	49,500	4.1	29,500	3.0	27.61

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

- ① 期末発行済株式数（自己株式を含む）
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数（四半期累計）

26年3月期3Q	1,075,540,607株	25年3月期	1,075,540,607株
26年3月期3Q	7,444,239株	25年3月期	6,988,958株
26年3月期3Q	1,068,423,459株	25年3月期3Q	1,068,693,577株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期連結財務諸表の四半期レビュー手続が実施中であります。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等はさまざまな要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件および業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信（添付資料）P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	3
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	3
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	3
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	3
3. 四半期連結財務諸表	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	6
四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	8
4. 補足情報	9
鉄道事業旅客収入及び旅客人員表(個別)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間のわが国経済は、政府の経済対策等により円高の是正や株価の回復が進み、景気は緩やかな回復基調で推移しているものの、海外景気動向及び消費税増税後の景気減速懸念により先行き不透明な状況となっております。

このような情勢下にあります、当社グループでは、安全はすべての事業の根幹であるとの認識のもと、「東武グループ中期経営計画2010～2013」にもとづき、将来にわたる持続的成長を目指し各種施策を実施いたしました。

当第3四半期連結累計期間の連結業績は、営業収益は430,498百万円（前年同期比0.9%増）、営業利益は44,378百万円（前年同期比10.6%増）、経常利益は40,519百万円（前年同期比16.3%増）、四半期純利益は25,454百万円（前年同期比23.5%増）となりました。

セグメント情報の業績を示すと、次のとおりであります。

(運輸事業)

鉄道業におきまして、当社では安全を最優先に、より多くのお客様にご利用いただけるよう、様々な取り組みを進めております。

安全輸送面では、伊勢崎駅付近の高架化切替を10月に実施し、野田市駅付近・竹ノ塚駅付近の高架化工事についても鋭意推進するほか、ホームからの転落防止対策として、船橋駅の可動式ホーム柵設置工事を進めました。また、地元消防と連携した異常時訓練を南栗橋車両管区七光台支所および森林公園検修区にて実施したほか、大規模災害に備えて高架橋耐震補強などの防災対策工事を進めました。

営業面では、沿線価値向上を目指し、野田線に路線愛称名「東武アーバンパークライン®」を2014年4月より導入することを発表いたしました。また、秋の行楽シーズンに合わせて特急列車の増発を行いお客様の利用を促進したほか、12月の木・金曜日の深夜時間帯にTJライナーをはじめとした臨時列車を運転するなど、増収に努めました。

バス・タクシー業におきまして、東武バスセントラル(株)では深夜急行バス「ミッドナイトアロー久喜」をJR東武東上線まで延伸したほか、関越交通(株)では期間限定で高速バス「みなかみ温泉号」、「伊香保・四万温泉号」を新設いたしました。

運輸事業全体として、営業収益は158,984百万円（前年同期比0.6%増）、営業利益は24,440百万円（前年同期比0.9%増）となりました。

(レジャー事業)

スカイツリー業におきまして、訪日観光客の誘致活動を積極的に展開するとともに、開業1周年記念イベントや季節に応じたイベントに加え、2020年東京オリンピック・パラリンピック開催決定の際等、多彩なライティングを実施し、多くのお客様にご来場いただけるよう努めました。また、5月には在京テレビ局6社による本放送が開始され、社会インフラとしての電波塔機能を本格的に発揮することとなりました。

ホテル業におきまして、コートヤード・マリオット銀座東武ホテルのレストラン「フィオーレ」のリニューアルが奏功し、好調に推移しました。また、東京スカイツリー®オフィシャルホテル（3ホテル）では天望デッキ®入場券付宿泊プランを販売し、スカイツリー®との相乗効果をはかりました。仙台国際ホテル(株)では仙台三越に「デリカショップ」を新規出店し、増収に努めました。

遊園地・観光業におきまして、東武動物公園では、5月よりホワイトタイガーの赤ちゃんを一般公開し集客に努めたほか、11月に「第1回埼玉県おもてなし大賞」を受賞いたしました。東武ワールドスクウェアでは、展示物のリニューアルや「イルミネーションin東武ワールドスクウェア」などのイベントを開催いたしました。

スポーツ業におきまして、(株)東武スポーツでは、「TOBUアスレティック@スタジオ ネオスわかば」を新規出店し、増収に努めました。

レジャー事業全体として、営業収益は52,970百万円（前年同期比5.3%減）、営業利益は9,708百万円（前年同期比20.8%増）となりました。

(不動産事業)

スカイツリータウン業におきまして、東京ソラマチ®では、1周年記念イベントやクリスマス等の季節に応じたイベントを実施し、誘客および収益確保をはかりました。また、東京スカイツリーイーストタワー®において、オフィス成約率100%を達成いたしました。

不動産賃貸業におきまして、保有資産を有効活用し、安定的な収益確保および沿線価値の向上をはかるため、新船橋高架下店舗の新設、厚木配送センターの一部建替を行ったほか、松原団地駅構内の駅ナカ店舗をリニューアルし、「エキア松原」をオープンさせました。また、新越谷駅ビル「ヴァリエ」、西新井ペアロードのリニューアル工事に着手いたしました。

不動産分譲業におきまして、沿線の価値向上および沿線定住人口の増加を目的として、分譲マンション「ソライエ草加松原」を販売いたしました。

不動産事業全体として、営業収益は46,566百万円(前年同期比11.3%増)、営業利益は6,424百万円(前年同期比19.3%増)となりました。

(流通事業)

流通業におきまして、㈱東武百貨店では、宝飾品・高級時計等を中心に高額品が好調に推移したほか、人気の「秋の大北海道展」等催事を開催し、誘客に努めました。そのほか、㈱東武カードビジネスでは、東京ソラマチでのポイントアップキャンペーンを開催するなど、会員数の増加に努めました。

流通事業全体として、営業収益は152,555百万円(前年同期比1.1%増)、営業利益は895百万円(前年同期比131.8%増)となりました。

(その他事業)

㈱東武エネルギーマネジメントでは、佐野市(葛生駅南側土地)において、鉄道貨物ヤードの跡地を活用した大規模太陽光発電(メガソーラー)事業を7月より開始いたしました。

また、建設業におきまして、東武建設㈱では、取手市において大型マンション工事を完成させました。東武谷内田建設㈱では、豊島区において大型地下道路の建設工事を、東武緑地㈱では、西多摩郡において公園園地の整備工事をそれぞれ受注いたしました。

その他事業全体として、営業収益は63,527百万円(前年同期比7.2%増)、営業利益は3,246百万円(前年同期比41.0%増)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、減価償却の進行による有形固定資産の減少があったものの、投資有価証券の時価が回復したこと等により1,484,382百万円となり、前連結会計年度末と比べ21,012百万円(前期比1.4%増)の増加となりました。

負債は、有利子負債が減少したこと等により1,129,707百万円となり、前連結会計年度末と比べ5,923百万円(前期比0.5%減)の減少となりました。

純資産は、四半期純利益の計上やその他有価証券評価差額金が増加したこと等により354,674百万円となり、前連結会計年度末と比べ26,935百万円(前期比8.2%増)の増加となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当第3四半期連結累計期間の業績は、概ね計画通り推移しております。従って、通期の業績予想につきましては、前回発表時(平成25年10月31日公表)の予想を変更していません。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位: 百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	23,499	32,476
受取手形及び売掛金	42,807	52,573
分譲土地建物	39,052	32,201
その他	35,610	38,820
貸倒引当金	△677	△692
流動資産合計	140,291	155,378
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	568,567	553,552
土地	501,479	504,399
その他(純額)	117,946	115,390
有形固定資産合計	1,187,993	1,173,341
無形固定資産	20,239	30,693
投資その他の資産		
投資有価証券	70,595	82,539
その他	47,235	44,910
貸倒引当金	△2,985	△2,481
投資その他の資産合計	114,845	124,968
固定資産合計	1,323,078	1,329,003
資産合計	1,463,370	1,484,382

(単位: 百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	28,275	39,670
短期借入金	44,172	49,420
1年内返済予定の長期借入金	118,881	126,156
1年内償還予定の社債	19,700	29,800
引当金	5,347	6,368
その他	141,494	132,935
流動負債合計	357,871	384,351
固定負債		
社債	119,870	129,670
長期借入金	453,225	408,558
退職給付引当金	40,795	46,118
その他の引当金	1,243	1,118
その他	155,391	155,369
固定負債合計	770,525	740,834
特別法上の準備金		
特定都市鉄道整備準備金	7,234	4,521
特別法上の準備金合計	7,234	4,521
負債合計	1,135,630	1,129,707
純資産の部		
株主資本		
資本金	102,135	102,135
資本剰余金	70,398	70,398
利益剰余金	90,050	109,136
自己株式	△3,435	△3,665
株主資本合計	259,149	278,005
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	12,957	20,290
土地再評価差額金	38,769	38,700
為替換算調整勘定	—	0
その他の包括利益累計額合計	51,727	58,992
少数株主持分	16,862	17,677
純資産合計	327,739	354,674
負債純資産合計	1,463,370	1,484,382

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 四半期連結損益計算書
 第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)
営業収益	426,664	430,498
営業費		
運輸業等営業費及び売上原価	296,562	296,766
販売費及び一般管理費	89,988	89,352
営業費合計	386,551	386,119
営業利益	40,112	44,378
営業外収益		
受取配当金	3,189	3,443
保険配当金	445	454
その他	1,459	1,463
営業外収益合計	5,094	5,361
営業外費用		
支払利息	8,867	7,988
その他	1,496	1,232
営業外費用合計	10,364	9,220
経常利益	34,842	40,519
特別利益		
工事負担金等受入額	1,669	1,734
特定都市鉄道整備準備金取崩額	2,712	2,712
その他	4,362	1,011
特別利益合計	8,745	5,458
特別損失		
固定資産除却損	2,267	398
固定資産圧縮損	1,664	1,723
減損損失	3,013	338
その他	543	510
特別損失合計	7,489	2,970
税金等調整前四半期純利益	36,098	43,008
法人税、住民税及び事業税	15,661	17,288
法人税等調整額	△1,682	△1,099
法人税等合計	13,978	16,188
少数株主損益調整前四半期純利益	22,119	26,819
少数株主利益	1,503	1,364
四半期純利益	20,616	25,454

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位:百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	22,119	26,819
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	2,838	7,339
為替換算調整勘定	—	0
持分法適用会社に対する持分相当額	△3	△0
その他の包括利益合計	2,834	7,339
四半期包括利益	24,954	34,159
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	23,451	32,788
少数株主に係る四半期包括利益	1,503	1,370

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

I 前第3四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年12月31日)

1 報告セグメントごとの営業収益及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント						調整額 (注1)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注2)
	運輸事業	レジャー 事業	不動産事業	流通事業	その他事業	計		
営業収益								
(1) 外部顧客への 営業収益	155,782	54,567	28,326	148,715	39,271	426,664	—	426,664
(2) セグメント間の 内部営業収益又は振替高	2,266	1,378	13,526	2,221	19,991	39,384	△39,384	—
計	158,048	55,945	41,852	150,937	59,263	466,048	△39,384	426,664
セグメント利益 又は損失(△)	24,224	8,035	5,384	386	2,301	40,331	△218	40,112

(注) 1 セグメント利益又は損失の調整額は、セグメント間取引消去であります。

2 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「レジャー事業」セグメントにおいて、連結子会社が北海道地区で経営するゴルフ場について将来の回収可能性を検討した結果、減損損失を計上いたしました。

なお、当該事象による減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間において2,907百万円であります。

II 当第3四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年12月31日)

1 報告セグメントごとの営業収益及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント						調整額 (注1)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注2)
	運輸事業	レジャー 事業	不動産事業	流通事業	その他事業	計		
営業収益								
(1) 外部顧客への 営業収益	156,667	51,708	32,735	150,632	38,753	430,498	—	430,498
(2) セグメント間の 内部営業収益又は振替高	2,316	1,261	13,830	1,923	24,773	44,105	△44,105	—
計	158,984	52,970	46,566	152,555	63,527	474,603	△44,105	430,498
セグメント利益 又は損失(△)	24,440	9,708	6,424	895	3,246	44,715	△337	44,378

(注) 1 セグメント利益又は損失の調整額は、セグメント間取引消去であります。

2 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

4. 補足情報

鉄道事業旅客収入及び旅客人員表 (個別)

(決算)

		前第3四半期 自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日	当第3四半期 自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日	比較増減率
旅客収入	定期外	58,173百万円	58,480百万円	0.5%
	定期	48,617百万円	48,799百万円	0.4%
	合計	106,790百万円	107,279百万円	0.5%
旅客人員	定期外	233,157千人	233,529千人	0.2%
	定期	432,993千人	436,130千人	0.7%
	合計	666,150千人	669,659千人	0.5%

※定期外旅客収入は、特急料金を含んでおります。

※単位未満端数四捨五入で表示しております。